

## 最近経験した乳突蜂巢限局性の感染症2症例

佐藤 哲也      守田 雅弘      大石 直樹      茂呂 順久      中村 健大  
松田 雄大      永藤 裕      壺坂 俊仁      長井 恵一      小柏 靖直  
金谷 毅夫      山内 宏一      唐帆 健浩      武井 泰彦      甲能 直幸

杏林大学耳鼻咽喉科

**【はじめに】** 私共の施設で本年比較的珍しい乳突蜂巢に限局する感染症を小児と成人で1例ずつ経験したので、報告することとなった。

**【対象および治療経過】** 小児例は、1歳9ヵ月の女児で、左耳介後部の腫脹を主訴として夜間当院救急外来を受診し鼓膜所見に著変を認めず、全身状態も良好であったために帰宅した。その翌日一般外来初診となり、側頭骨CT所見にて乳突蜂巢にび慢性で骨破壊を伴う陰影を認め、急性乳様突起炎の診断で入院の上、乳突蜂巢削開術施行となった。術中、削開部より排膿し、細菌検査では *Streptococcus Pneumoniae* が検出されたが、術後は抗生物質点滴治療もあり順調に回復した。もう1例の成人例は、右耳介後部に皮膚欠損と骨の露出を慢性的に認め、近医より根治治療目的で紹介受診となった。皮膚欠損部の細菌検査では MRSA を認め、側頭骨CT所見で右乳突蜂巢のごく表層および天蓋部に限局した陰影を認め乳突削開術となった。手術所見では乳突蜂巢を形成する骨の一部に壊死や炎症性粘膜を可及的に全部摘出した。術後は強力に抗生物質点滴治療を行い順調に経過した。

**【結果および考察】** 今回、乳突蜂巢近傍に限局する感染性病変を2例経験したので報告した。一般的に乳幼児においては、鼓膜所見にとらわれずに耳介後部周辺の所見も念入りにみたうえで、外耳道部の腫脹だけで乳様突起炎を疑わなくてはならないこともあると考えられた。